

コスタリカ経済 定期報告 (2018年2月)

2018年3月

在コスタリカ日本大使館 経済班

※出典：コスタリカ中央銀行、財務省、貿易省(COMEX)及び貿易振興機構(PROCOMER)(12-2月分数値)。主な出来事については当地新聞記事<sup>1)</sup>による。

1 主要経済指標

	2017年	2017年/2018年		
		12月	1月	2月
累積輸出総額 FOB(100万ドル)	10,609.5	10,609.5	813.2	n.a.
累積輸入総額 CIF(100万ドル)	15,919.1	15,919.1	1,305.2	n.a.
貿易収支(100万ドル)	▲5,309.9	▲5,309.9	▲490.2	n.a.
財政収支対 GDP 比(%)	▲6.17	▲6.17	n.a.	n.a.
消費者物価指数(CPI:2015年6月を100とする)	102.5	102.5	102.9	n.a.
為替 (通貨はコロン・1米ドルあたり中値・月末値)	570.20	570.20	571.77	569.83
政策金利(%)	4.75(年末値)	4.75	4.75	5.00
基本預金金利(%)	5.95(年末値)	5.95	6.10	6.00
外貨準備高(100万ドル)	7,149.8	7,149.8	7,120.1	6,944.9

2 2018年2月大統領選挙結果

(1) 選挙結果

2月4日の大統領選挙の結果、ファブリシオ・アルバラード候補(国家復興党: PRN)とカルロス・アルバラード候補(市民行動党: PAC)の2名による決選投票が4月1日に実施されることになった。経済活動の減速が昨年から継続しており、2018年の経済成長は昨年ほど期待できず、財政赤字も過去最悪を更新するなど経済情勢に関しては懸念材料がある中での選挙であった。ファブリシオ・アルバラード候補は当初支持率が低かったが、本年1月9日の米州人権裁判所による同性婚に関する勧告的意見の発出を機に、地方の保守的な有権者の支持を獲得しつつ首位の得票率を獲得した。対抗馬のカルロス・アルバラード候補は、財政赤字を過去最悪レベルにし、失業率も一向に改善できない現与党からの候補者ということもあり不利と見られていたが、ファブリシオ・アルバ

<sup>1)</sup> ラ・ナシオン紙, ラ・レプブリカ紙, エル・フィナンシエロ紙

ラード候補とは逆に、同性婚の合法化の容認をマニフェストに盛り込み、従来から支持基盤を有する都心部を中心に着実に票を獲得し、第2位に追いついた。結果的に、両候補より具体的な経済政策を掲げていた伝統政党である国民解放党(PLN)とキリスト教社会統一党(PUSC)の候補がいずれも決選投票に進めなかったことは、今次選挙における国民の最大の関心が、候補者の経済政策の中身ではなかったということを示唆している。

## (2) 両候補の経済政策

ア ファブリシオ・アルバラード候補(PRN)のマニフェストのキーワードは、同性婚反対などの伝統的価値観の回復と障がい者、老人、子供などの社会の弱者の救済である。同候補は増税の必要性を説くが、具体的な税制改革の中身には言及しておらず、代わりにデジタル決済などによる脱税の取締りや公務員の給与体制の見直しなどを上げている。雇用の創出に関しては、テレワークの推進などいくつかの案を示しており、自由貿易のあおりを受ける農家や国内企業の保護を主張しながらも、新たな自由貿易協定(FTA)の締結をも目指すと述べている。

イ 一方、カルロス・アルバラード候補(PAC)は、同性婚容認の姿勢が示すように、女性、障がい者、同性愛者、移民、先住民などの社会的弱者への支援や、機会均等などによる社会的公平の実現を重視している。同候補は、付加価値税(VAT)導入は元より、所得税見直しを謳っている。また、歳出削減として公務員制度の見直し、コスタリカで最も多額の予算が割り当てられている教育省(MEP)や、インフラ建設を担う公共事業運輸省(MOPT)などの省庁再編などを上げ、雇用創出案としては、労働省(MTSS)の権限強化による労働条件の改善、インフォーマル雇用削減のための中小企業の起業支援、官民連携事業による雇用創出や職業教育の推進、首都及び地方への外国投資の誘致などを挙げている。同候補の経済政策は、ファブリシオ・アルバラード候補のものよりも具体的と見られている。

ウ ファブリシオ・アルバラード候補が今後ともFTA締結を促進していくと表明しているのに対し、カルロス・アルバラード候補はFTAとは、テクノロジーの発展、金融、手続き簡素化等の諸条件を果たした上で締結するものであり、これ以上のFTA締結は国内産業の保護の観点から問題であり、新政権では新たなFTAは望まないとしている。実際、PAC政権の4年間に締結されたFTAは中米・韓国間のものだけであった。

## 3 財政

- (1) 2018年の主要信用格付機関3社によるコスタリカ国債への評価は、スタンダード&プアーズ社は現状維持のBB-であり、フィッチ・レーティング社は昨年からの評価を下げ(BB→BB-)、ムーディーズ社は、今年の格付けは5月の新政権発足以降に発表するとしている。総じて、いずれの格付機関もコスタリカ国債には依然投機的リスクが伴う

と評している。3社とも主要な懸念は、本年対GDP比7.1%に達すると見込まれている財政赤字にあることで一致しており、3社ともコスタリカがこれ以上評価を下げられなければ、財政改革以外の方法はないと述べている。

- (2) 政治リスク専門コンサルティング会社であるユーラシアグループは、4月の大統領決戦投票に関して、ファブリシオ・アルバラード候補は、カルロス・アルバラード候補よりも、イデオロギーに柔軟性があり国会で野党との連携が形成できる可能性があるため、財政改革に関してはカルロス候補よりも実行力があると見ている。

#### 4 その他の経済ニュース（出典：当地報道など）

##### ●コスタリカの腐敗度指数

世界各国の腐敗や汚職を監視する非政府団体（NGO）「トランスペアレンシー・インターナショナル（TI）」が2018年の各国の腐敗度をランキングしたところ、コスタリカは100点満点中59点であり180か国中38位であった。昨年、国政史に残るほどの汚職である中国セメント事件が取り沙汰され現在も解決を見ていないが、それでも依然コスタリカの評価は中米一であり、ラ米16か国中では3位につけている。なお、ラ米で最高評価はウルグアルイであり70点・23位、最低評価はベネズエラで18点・169位であった。中米最低点はニカラグアの22点・151位であった。

##### ●中米・韓国 FTA の署名

2月21日、中米・韓国FTAがソウルで署名された。このFTAにより、韓国へはコーヒー、牛肉、豚肉、熱帯フルーツ、フルーツジュース、キャッサバ、ヤシの芽、こしょう、砂糖の輸出増加が見込まれる。韓国の産業通商資源部は、中米5か国に自動車、鉄、鋼鉄、電化製品、繊維製品などの輸出拡大を見込んでいる。韓国からのコスタリカへの主要な輸出品は、普通車、マイクロバス、輸送用トラックで68%を占め、他に飲料、タイヤ、ワクチンがある。しかしながら、FTAが発効しても、コスタリカが今後韓国の投資を引き付けるには、テクノロジー、質のある雇用、付加価値創出、インフラ整備などの課題を克服しなければならず、そうしなければ韓国からの輸入が増加するだけであるとも指摘されている。

(丁)